



とらいあんぐる



2020 年 9 月

一音会ミュージックスクール発行

「珠子さんへ」

たまちゃん、あなたのことを「とらいあんぐる」に書いたりすると、あなたはきっとイヤがるでしょうね。

「えー！やめてくださいよー！」というあなたの声がきこえてきそうです。

あなたはいつも、人より前に出ようとすることもなく、過剰なまでに謙虚な人でした。さぞかしイヤがるだろうと思います。

それでも、一音会の中で誰よりもあなたを知る私は、今いる生徒さんにも、

ご家族の皆さまにも、もっともっと、あなたのことを知ってもらいたい気持ちをおさえられません。

これからも、あなたはたくさんの生徒さんやご家族と触れ、愛情をかけ、指導をしていったはずなのです。あなたのことを知るはずだった未来のあなたの生徒さんのことを思うと、やりきれません。

やっぱり私は、あなたの優しさとあなたの魅力を、ここに書かずにいられません。

あなたが、はじめて私の家に来た時、あなたは4歳でした。私は小学生でした。

私の母の直接の生徒となったあなたは、私の家に毎週、来てくれるようになりました。

あなたが毎週、私の家に来てくれる生活は、あなたが大学を卒業するまで続きましたね。

とにかく休まない生徒でした。18年間です。私の母がもっとも長く直接指導した生徒は、まちがいなくあなたでした。

母が、あなたのことを娘のように思い、私が、あなたのことを妹のように思うようになったのは、自然な成り行きだったと思います。

大学を卒業したあなたは、一音会に就職してくれました。そして今にいます。

約20年間、愛情深いあなたは、一音会の先生として、あふれるほどの愛情を生徒さんに注いでくれました。

そして、いつも私のそばにいてくれましたね。

生前、私の母は「若草物語」の4姉妹になぞらえ、鈴木先生、夏目先生、私、あなたの4人を4姉妹としてあつかっていました。

あなたは実生活では姉で、実際には神経質でしっかり者なのに、あなたは末っ子らしい奔放さで、私を笑わせ、楽にしてくれる人でした。

きょうだいのいない私のために、すすんで妹の役割を演じてくれていたような気がします。そのことに気づいたのも、あなたがいなくなってからです。

ああ、たくさんの思い出があるのに、今は頭の中がまっしろです。



あなたは学生時代、ワンダーフォーゲル部に所属し、かなり本格的な登山をしていました。見かけによらず丈夫な人でしたが、おとなになってからは健康に不安があるように、私には見えませんでした。

一音会には歩いて来ることができましたが、乗り物がひどく苦手なあなたは、発表会がちょっとした難題でしたね。

私が、「負担になるようだったら、発表会は来なくていいからね」というようになったのは、この数年のことです。

よく考えると心配のしすぎです。

実際、あなたにも怒られました。

「他のスタッフに対するのと同じように接してくれなくちゃイヤだ！」と、だだをこねていました。

「他の先生には、発表会に来なくていいなんていわないじゃないか！」

確かにその通りです。

でも私は、怒るあなたがかわいくて、妹あつかいをやめることができませんでした。

お姉さんのようにふるまってみただけかもしれません。

私は知っていました。「来なくてもいい」といっても、あなたが来るにちがいないことを。

実際、「来るな、来るな」と、しつこくいっていましたが、あなたは毎年、欠かさず発表会に来て、生徒さんに寄りそってくれました。

あなたも知っていたのでしょうね。

私が「来なくていい」といいながら、あなたが来ると喜んでいたことを。

今年の発表会は、いつもと違い、会場が清瀬でした。

「たまちゃん、今年は本当に来なくていい。遠いから。あと暑いから」

「いや、行きます」

「いや、来なくていい」

「絶対、行きます」

「いや、来なくていいから！」

「絶対、絶対、行きます！」

いつものやり取りでした。

恒例のやり取りなので、お互い、遊んでいます。

あなたも笑っていましたね。私も笑ってました。

でもその後、あなたは私がドキッとすることをいったのです。おぼえていますか？

「私が会場にいるのをアヤコさんが見て、私に無理をさせたと言ったアヤコさんが思うのは、絶対イヤです！ それだけは絶対イヤです！」

あなたがあんまり強い口調でいうので、私はとてもびっくりしました。

「私が会場にいても、それは私が来たくて来たんだって、思ってくださいね」

あなたの優しさを、改めて感じました。

あなたは、今年の発表会に来ませんでした。

発表会の翌朝、あなたのお母さんから電話をもらった私は、あなたの家に行きました。

冷たくなってしまったあなたの顔に触れ、思わずにられません。

「無理をさせてしまったのか・・・」

その時、よみがえったのは、あの時のあなたの言葉です。

「私に無理をさせたと言ったアヤコさんが思うのは、絶対イヤです！」

この瞬間のための言葉だったのでしょうか。

実際、あなたのこの言葉がなかったら、今、私は立ち上がっていません。

最後の最後に、あなたの優しさをこんな形で知らされるとは！

あなたは、生真面目な中にユーモアをたやさない人でした。おもしろいことに努力を惜しまない人でした。

発表会の翌日、あなたのお母さんから、実にあなたらしいエピソードをききました。

あなたは最近、ガーデニングに、はまっていたそうですね。知りませんでした。

そのガーデニングは、種や苗を買ってくる、あたりまえのガーデニングではなく、サラダの中のプチトマトの種の部分をわざと食べ残し、それを植える等、かなり独特なものだったようです。

ごく最近、なぜか練馬大根にチャレンジしようとしていたとききました。

なぜ練馬大根なのか、あなたから理由をきくことができなくて本当に残念です。きっと独特の理由があったにちがいありません。

練馬大根は大きいので、地下1メートル以上の深さまで耕さないといけないそうですね。都会の小さなお庭では、とても無理です。

普通はあきらめます。

でも、あなたはそういう人ではありませんでした。

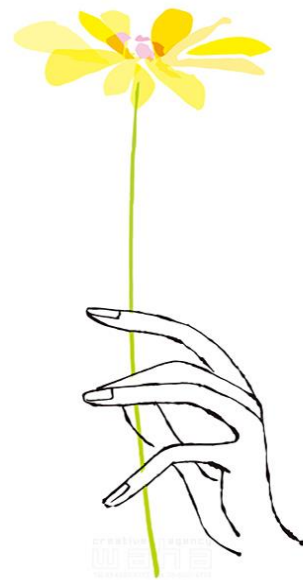
ゴミ用の大きなポリバケツで育てることを思いつきます。

あの日、ベッドで息をしていないあなたを見つけたお母さんが救急隊を待つ間、宅急便で玄関に届いたのは大きなポリバケツと大量の園芸用の土だったそうです。

どんな場面でも、一片のユーモアがある、あなたの人生を象徴するようなシーンだったように、私には思えます。

本気で、練馬大根を育てようとしていたのですね。

最後まで、あなたはあなたらしい人でした。



あなたの知らない話を1つ。

お母さんは、これから、あなたを買ったポリバケツで練馬大根を育てるそうですよ。

私はそれをきいて、本当にうれしかったのです。

そしてね。

「ひっこ抜く時は、どうしたら良いのかしら？ 高いところに登らないとダメかしら？」と困っていらっしやいました。

そのご様子が、あなたにそっくりで、チャーミングで、ハッとしました。

あなたもきっと、収穫の時になって、どうやってひっこ抜くか、真剣に考えたでしょう。そういう人でした。

そういう時、「バケツを横倒しにして、土を出してしまえばいいね」と、簡単でつまらない解決法をとってしまう私は、つまらない人なのです。

どうがんばっても私は、あなたのようなおもしろい人になれないのです。

あなたは、他人が思いつかない楽しいことを思いつき、それにもものすごく真剣に取り組む人でした。

奔放さと真面目さを、独特のバランスで実現した、稀有の人です。それがあなたの最大の魅力であったと、私は思っています。

43年という短い人生の中の実に39年間、ずっと一音会にいてくれてありがとう。

前半は生徒として、後半は先生として、あなたはかけがえのない人でした。

大好きなたまちゃん、また会いましょう。

今度、生まれ変わる時は、本当の姉妹になりましょうね。

(江口 彩子)



◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

8月28日（金）、29日（土）、30日（日）の3日間にわたっておこなわれた「ピアノ発表会」が、無事、終わりました。

今年の発表会は、開催にあたり、「本当に開催して良いのだろうか？」と、スタッフの間でも、長い時間をかけ、協議を重ねました。同じように、ご家庭の中でも、「発表会に参加するべきだろうか？」と、話し合いを重ねてくださったことと思います。その上で、参加のご判断をくださった方が、私どもが思う以上にたくさんいらしたことは、私どもにとって、これ以上ない力となりました。

教室のコロナ対策に信頼を置いてくださったことを裏切らないよう、発表会は細心の注意のもとに開催しました。そのせいで、皆さまには多大なご面倒もおかけいたしました。消毒のルールや着席や整列のルール等、制約が多く、たいへん窮屈な思いをさせてしまったことと思います。

無事に発表会を終えることができましたのは、生徒さん、ご家族の皆さまのご協力あつてのことでした。心から御礼を申し上げます。

とりわけ申し訳なく思いますのは、29日（土）と30日（日）で、進行が予定より遅れ、第二部、第三部の開始時間を遅らせることになってしまったことです。皆さまをお待たせすることになってしまいました。

言い訳になりますが、例年通りの進行であれば予定通りでした。ですが今年は、椅子や鍵盤の消毒、舞台袖での手指消毒、マスクの脱着、ソーシャルディスタンスをおいた上での舞台袖での移動・・・例年にはない工程が、あまりにも多くありました。

それぞれは一瞬のことなのですが、数十人、続くことでロス時間が堆積し、結果的に進行の遅れとなりました。その計算ができていなかったことは、私どものミスです。来年以降は、今年のタイムスケジュールを貴重な資料とし、皆さまをお待たせしないようにいたします。本当に申し訳ございませんでした。

今年も、ピアノ出演の生徒さんには、記念の金メダルをお渡ししました。今年の図柄は、鳥の王者であるワシです。

私たちは、新型コロナのせいで、自粛生活を余儀なくされ、ずっと家の中に閉じ込められていました。大空を自由に舞うワシに、願いを託しました。生徒さんには、広

い空を自由に飛ぶような、そんな活躍をしてほしい、そんな世界になってほしい、そうした願いをこめています。

まだまだ世の中の閉塞感は続きますが、子どもたちは、金色に輝くワシの姿を胸に掲げ、のびのびと活動してほしいと強く願っています。



◆来年の発表会

来年の発表会は、8月6日（金）、7日（土）、8日（日）、9日（月）の4日間です。長く一音会にいらっしゃる方なら、「いつもの時期だな」とお感じになることでしょう。いつも一音会は、8月最初の週末を含む形で、発表会を開催しています。

今年だけが異例でした。今年は、わざわざ日程をずらし、オリンピックと重ならない日程にしたのでした。そのオリンピックが延期され、結果的にはいつもの時期で良かったのかと思うと、徒労感におそわれます。ですが、今年は緊急事態宣言で新年度のスタートが遅れた分、発表会が後ろに延びたのは、それはそれで良かったのかもしれません。

さて、来年の同時期、現時点ではオリンピックが開催されることになっていますが、正直、本当に開催されるのか、分かりません。考えても分からないことを

あれこれ考えるのはやめ、来年は例年通りの日程にいたします。

来年度の発表会を以下のように開催いたします。

日時： 2021年 8月6日(金)・7日(土)・8日(日)・9日(月)

場所： 「アクトホール」(東武東上線「成増」駅より徒歩1分)

場所も、長く一音会にお通いの方にとっては、おなじみのホールです。

来年こそは、いつもの時期に、いつものホールで、いつもの発表会を開催したいと願っています。

そんなささやかな願いも、かなえるのが簡単ではないことを、私たちは思い知りました。あたりまえが果たせるよう、願うばかりです。

◆「音楽の集い」を中止します

一音会では、文化の日を毎年、“音楽を愛する人が集う日”と決めて、おとなの方の発表会「音楽の集い」を開催してきました。

「音楽の集い」は、一昨年に20周年を迎え、今年は22年目にあたる年でした。1年も休むことなく続いてきた「音楽の集い」の歴史ですが、今年は中止といたします。断腸の思いです。

中止を決めました理由は、以下の4点です。

- ・出演者とお客様の年齢層が高い
- ・声楽のご出演が多い
- ・すでに不参加を表明している方が少なくない
- ・恒例の茶話会ができない

中止というよりは、延期と考えていただいた方が良いのかもしれませんが、「Withコロナ」の状態を迎える最初の秋冬にあたる時期に、高齢の方を含むイベントをおこなうことには、やはり大きな不安があります。

新型コロナについては、分かってきたことも多く、治療法も進歩し、最近の致死率は第一波の頃の6分の1であるといわれています。もう少し待てば、ワクチンも実用化され、安全に開催できるようになるでしょう。おそらく来年は、安心して「音楽の集い」を開催できることでしょう。

今年に照準をあわせて、練習をしてきてくださった方には、たいへん申し訳ない事態になりましたが、次の開催に向け、練習をお続けください。発表の日を、心待ちにしています。

◆訃報

一音会のスタッフとして長年、指導にあたってきた栗原珠子先生が、8月29日（土）早朝、永眠されました。

栗原先生は、その日も発表会に足を運ぶ予定であり、前日までいつもと変わらない様子で発表会の準備に尽力してくれていました。

あまりにも突然で、何の予兆もなかったため、私たちはまだ現実を受け入れることができず、呆然とするばかりですが、栗原先生が担当してきた生徒さんの心のケアに全力を尽くしたいと思っています。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。